

小児看護学

【科目構成とねらい】

小児看護学では、子どもを「一個の人格を持ち、尊重されるべき存在」「環境との相互作用の中で生活し、成長・発達し続ける存在」「限りない可能性を持つ存在」としてとらえる。

子ども時代は、ヒトから社会的存在としての人間へと絶え間ない成長・発達を遂げる時期である。小児看護学は、このようなライフステージにある、あらゆる健康レベルとあらゆる状況にある子どもとその家族を対象とする。より良い社会の中で人は育つことを理解し、プライマリ・ヘルス・ケアの理念に基づき子どもの健康が保持・増進されること、健やかな成長・発達が保障されること、苦痛が緩和し安楽に過ごせること、時には穏やかな死を迎えることに向けた看護について学ぶ。

「子どもの成長発達と看護」

小児看護の目的は、子どもの権利を尊重し、一人ひとりの子どもが健康に育つことのできる環境を整え、生活の質(QOL)が向上するように支援することである。子ども時代が人間形成の基盤として重要な時期であることを前提とし、子どもが健やかな成長・発達を遂げるために、子どもを取り巻く社会環境や子どもの成長・発達に重要な影響力を持つ家族の役割について学ぶ。看護の主体としての子どもの倫理的課題を感じ取り、子どもの最善の利益を考えた看護のあり方を考察する。

「子どものヘルスプロモーションを支える看護」

子どものライフスタイルや健康は、子どもを取り巻く環境と、家庭、地域の在り方に強く影響され、その中で日常生活行動や健康管理行動が発達する。子ども時代は、発達段階により病気に対する理解や対処行動が異なる。また、成長・発達の途上にある子どもは、身体的、精神的にも未熟であり、健康上の問題を引き起こしやすい。各発達段階に適した健康増進や発達促進への支援と共に、健康状態に応じた援助について学ぶ。

「子どもの健康状態に応じた看護」

医療技術の進歩は、多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で子どもの病気は重症化し、入院生活を余儀なくされることもある。また、ノーマライゼーションの思想から、重症心身障害児や医療的ケアが必要な子どもの在宅医療が進められている。こうした状況の中で、21世紀を担う子ども達が最善の利益を守られ、生き生きとその子らしく生活できるようにさまざまな健康状態にある子どもの成長・発達と、生活する場による子ども達の違いからその子らしさについて理解し、その援助について学ぶ。

「子どもの成長発達を支える看護」

「子どもの成長発達と看護」「子どものヘルスプロモーションを支える看護」「子どもの健康状態に応じた看護」で学んだ小児看護の知識・技術・態度について統合を図る最終科目である。さまざまな健康状態にある子どもの成長・発達や生活を理解することで、子どもの健康を増進し、苦痛を和らげ、その子らしく成長発達していくことに向けた援助を行うことが必要である。

子どもの状態をありのままに観察し、必要な援助を考え実践する、行動の根拠となる知識を再確認しながら判断する過程を繰り返し、子どもを支える家族と共に、子どもの最善の利益を守ることを理解し、それぞれの子どもに適した看護の方法を習得する。

※板橋看護専門学校では「子供」を「子ども」と表記する。

【目的】

子どもの権利の尊重を基盤として、成長発達過程を理解し、生き生きとその子らしく生活できるよう、最良の健康状態の保持・増進および健康障害の程度や発達段階に適した看護を理解する。

【目標】

1. 小児看護の変遷や社会的現状から子どもの健康を支えるための看護の役割を理解する。
2. 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律を理解し、子どもの最善の利益を考える。
3. 健康増進のための子どもと家族の看護を理解し、子どもの日常生活援助を習得する。
4. 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を理解する。
5. 子どもの尊厳を基盤として成長発達を支える援助を習得する。

【構成および計画】

科目	単位数	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
子どもの成長発達と看護	1(30)	○		
子どものヘルスプロモーションを支える看護	1(30)		○	
子どもの健康状態に応じた看護	1(30)		○	
子どもの成長発達を支える看護	1(15)		○	
計	4(105)	1(30)	3(75)	

授業計画

科目名	子どもの成長発達と看護		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 小児看護の変遷や社会的現状から小児看護の役割を理解する。 2. 子どもの成長発達過程を生活の側面から理解する。 3. 子どもの基本的な権利と擁護にかかわる法律を理解し、小児看護における倫理を考える。 4. 現代社会における子どもを取り巻く諸問題に気づき、子どもの最善の利益を考える。 5. 子どもの健康を支えるための看護の役割について考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	小児看護の対象 と目的・役割	小児看護の対象 小児看護の目的・役割	講義 演習	専任教員*		
第2回	子どもの成長と 発達	子どもの成長発達の原則 成長発達に影響する要因、形態的成長	講義	専任教員*		
第3回		機能的発達、感覚機能の発達、運動機能の発達	講義	専任教員*		
第4回		心理・社会的発達、身体発育の評価 小児看護における概念と理論	講義	専任教員*		
第5回		子どもの栄養の特徴、小児各期の成長発達 食育基本法	講義	専任教員*		
第6回		子どもの安全・事故防止	講義	専任教員*		
第7回		子どもの生活の 場	子どもの生活の場を知る地域調査(フィールドワーク) 子どもが生活している地域と場所(事前検索) 実地調査(場所と子どもの様子):子どもの居場 所・子ども食堂等の見学 地域調査結果のまとめ・発表 ※レポート提出	演習 または 見学	専任教員*	
第8回						
第9回	現代社会におけ る諸問題	現代家族の特徴、家族のアセスメント 多彩な家庭形態の子どもに及ぼす影響	講義	専任教員*		
第10回		現代の子どもと家族が置かれている状況 子どもの虐待、子どもの貧困、ヤングケアラー	演習	専任教員*		
第11回		現代の子どもと家族が置かれている状況 グローバル社会の子どもたち等	演習	専任教員*		
第12回	小児看護・医療 における法律	子どもを保護する法律・政策	講義	専任教員*		
第13回		社会福祉法、予防接種法、学校保健安全法	講義	専任教員*		
第14回	小児看護におけ る倫理	子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律 小児看護における子どもの権利	演習	専任教員*		
第15回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考						

授業計画

科目名	子どものヘルスプロモーションを支える看護		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 健康増進のための子どもと家族の看護を理解する。 2. 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を理解する。 3. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護を理解する。 4. プライマリヘルスケアで出会う看護を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 *実務経験のある教員	
第1回	子どもの発達段階に 適した生活 支援	乳児期の健康増進と家族への支援		講義	専任教員*	
第2回		幼児期の健康増進と家族への支援		講義	専任教員*	
第3回		学童期・思春期の健康増進と家族への支援		講義 演習	専任教員*	
第4回		Case learning 日常生活援助(子どもの抱き方、衣服の着脱・おむつ交換・身体計測)		校内 実習	専任教員*	
第5回	子どもによく見られる 症状と看護	急性期症状を示しやすい子どもの生理的、発達的特徴		講義	専任教員*	
第6回		子どもによく見られる症状とその看護 発熱、下痢、嘔吐、脱水		講義 演習	専任教員*	
第7回		子どもによく見られる症状とその看護 けいれん・呼吸困難・痛み				
第8回	子どもの病気の 理解	発達段階別の病気に対する理解の特徴と仕方 幼児前期・幼児後期・学童前期・学童後期		講義	専任教員*	
第9回		子どもの病気の理解に影響を与える要因		講義	専任教員*	
第10回	外来で出会う子 どもの看護	外来における子どもと家族の看護		講義	専任教員*	
第11回	病気の子どもの 看護	子どもが入院に伴い体験することと反応 子どもの入院に伴う家族の体験と反応 ケアを受ける子どもへの説明と同意の重要性と援助		講義	専任教員*	
第12回		ケアを受ける子どもと家族への援助 子どもの発達段階別援助		講義 演習	専任教員*	
第13回		ケアを受ける子どもと家族への援助 入院各期、入院の種類別の援助		講義 演習	専任教員*	
第14回		ケアを受ける子どもと家族への援助 入院中の子どもにとっての遊びや学習の意義と 援助		講義 演習	専任教員*	
第15回	評価			評価 方法	筆記・レポート 100点	
備考						

授業計画

科目名	子どもの健康状態に応じた看護		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 医療的ケアを必要とする子どもの看護を理解する。 2. 特殊な状況にある子どもの看護を理解する。 3. 医療を受ける子どもの最善の利益を守るための看護を考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	医療的ケアを必要とする子どもの看護	先天異常を持つ子どもと家族の看護 家族の理解と受容過程、家族の心理的準備とケア、医療的ケア児、退院支援	講義	専任教員*		
第2回		障害のある子どもと家族の看護 障害のある子どもの発達の特徴 家族の受容段階とケア、退院支援	講義	外部講師*		
第3回		手術を受ける子どもと家族の看護 子どもの痛みの受け止め、退院指導・継続看護	講義	専任教員*		
第4回		救急処置を要する子どもと家族の看護 検査を要する子どもと家族の看護 採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺	講義	専任教員*		
第5回	様々な状況にある子どもの看護	小児感染症と罹患した子どもとその家族の看護	講義	専任教員*		
第6回		隔離が必要な子どもと家族の看護	講義	専任教員*		
第7回		長期的経過をたどる疾患をもつ子どもと家族の看護 小児慢性特定疾患・子どもと家族のエンパワメント・成人診療科へのスムーズな転科を見据えた移行支援(トランジション)	講義	専任教員*		
第8回		在宅医療を受ける子どもと家族の看護 小児在宅ケアの現状(医療的ケア児の支援の実際を含む)、在宅移行への援助、入退院支援	講義	外部講師*		
第9回		終末期にある子どもと家族の看護	講義	専任教員*		
第10回	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児の集中治療と看護 低出生体重児の看護	講義	外部講師*		
第11回	特殊な状況下にある子どもの看護	災害時の子どもと家族の看護	講義	専任教員*		
第12回		被虐待児と家族への看護	講義	専任教員*		
第13回	医療を受ける子どもの権利	小児看護と倫理的配慮 医療を受ける上で起こりやすい問題 医療、治療の選択と決定を支える看護	講義 演習	専任教員*		
第14回		Case learning 医療を受ける子どもの権利について	講義 演習	専任教員*		
第15回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考						

授業計画

科目名	子どもの成長発達を支える看護		単位数 (時間)	1単位 (15)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 子どもの日常生活援助技術を理解する。 2. 子どもや家族との関わりに必要なコミュニケーションを理解する。 3. 子どもの尊厳を踏まえ、発達を考慮した援助の実践を通し理解する。 4. 検査や治療が必要な子どもに対する援助を理解する。 5. 子どもと家族を理解するための思考過程を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	健康問題を持つ 子どもの看護	事例の提示と説明 子どもと家族を理解する視点 (健康状態・成長発達・家族)	講義	専任教員*		
第2回	健康問題を持つ 子どもの看護	情報収集と整理 分析	演習	専任教員*		
第3回	子どもの権利を 尊重した援助	子どもの最善の利益を考えた援助 プレパレーション、ディストラクション	演習	専任教員*		
第4回	健康問題を持つ 子どもの看護	環境調整(小児用ベッドの取り扱いを含む) ヘルスアセスメント バイタルサイン測定・状態観察	校内 実習	専任教員*		
第5回		子どもの生活を阻害している因子の分析 解決に必要な援助計画 事例に応じた検査・処置を受ける子どもの援助 吸入療法、吸引	演習	専任教員*		
第6回		事例に応じた症状の緩和や薬物療法を受ける子ども の援助 経口与薬、輸液療法	校内 実習	専任教員*		
第7回		事例に応じた看護の実践と振り返り	演習 講義	専任教員*		
第8回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考	本科目は、Case learning で学ぶ。					